

I 教育目標

人権と多様性を尊重する態度を養い、自ら人生を切り開く力を伸ばすことで、一人一人の自己実現を支援し、主体的に地域や社会に貢献出来る人間を育てる。

II 学校経営方針（中期経営目標）

「真の自己実現にTRY」をスローガンに、教育目標の具現化に向けたキャリア教育の推進を継続し、「基礎・基本の充実」を「質の高い学力」につなげ、生徒の力が「伸びる学校」・生徒の力を「伸ばす学校」として、周囲に信頼され社会に貢献できる人間を育てる。

本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、教育課程を創意工夫し日々の教育活動の充実に努め、希望進路を実現し心豊かにたくましく生きる人間を育てる。

- 1 地域に密着し教育で支える学校として、生徒が基礎・基本を習得し実社会での活用法を学ぶことを通じて、様々な課題に対し協働的・主体的に取り組み、解決する力を養う。
- 2 キャリア教育推進により生徒の興味・関心を尊重して主体的な「学び」を支援し、積極的社会生活を営みうる職業観を醸成し生きる力を育み、社会に貢献する人間を育てる。
- 3 生徒一人ひとりを大切に、毅然として寄り添う愛情のある生徒指導を軸に、基本的生活習慣の確立、「自学・自習」の習慣の定着、個に応じた希望進路の実現を図る。

III 本年度学校経営の重点目標（短期経営目標）

1 希望進路の実現に向けた学力の充実

- (1) 授業を大切にす姿勢と授業規律の確保に努め、基礎学力の定着と学力の伸長に向けた主体的な学習者を育成するための各取組の実践を図る。
- (2) 個に応じたていねいな指導を行い、わかりやすい授業づくりや学習を支援するために、ICT 機器や学習支援システムの積極的な活用を図る。
- (3) 多面的評価に資する観点別評価を充実させ、新学習指導要領・生徒指導提要に沿って、生徒指導の3機能を念頭に、各科目の指導計画及び内容の研究・実践を進める。

2 自己有用感を高める生徒指導の徹底

- (1) 挨拶や身だしなみ、整理整頓、清掃等の基本的生活習慣の確立や、SNS、薬物乱用防止、交通安全等の規範意識の醸成に向けて、学校、家庭、地域が協働して指導を行う。
- (2) 各行事や生徒会、部、ボランティア等の活動をとおして、自己有用感の高揚を図り、主体的に行動できる態度を育てる。
- (3) 生徒個々の背景や抱える課題の改善、克服、支援に向けて、多くの教員が関わりながら温かく丁寧に指導し、必要に応じて外部機関との連携を強化する。
- (4) 「東稜大作戦」等の取組により、生徒と教職員が一体となって、高校生活を楽しくし、生徒の帰属意識と満足度を高め、学力伸長と希望進路の実現につなげる。

3 人権教育の推進

あらゆる場面での一人一人を大切にす指導を通じて多様性の理解および自他の生命と人権を尊重する意識や態度の育成を図る。

4 キャリア教育の推進

本校の各コース・分野の特色をより明確化し、それらおよび異学年間における有機的な関わりを通じた積極的な「学び」の展開や、「総合的な探究の時間」等を活用しながら、変動の激しい社会に対応できることを目指したキャリア意識の高揚を図り、職業観の醸成、希望進路の実現につなげる。

生徒に選択と表現の機会を提供し、自ら考え人生を拓く態度を養い、自律かつ自立した成人としての生活力を身に着けられる契機とする。

5 その他

- (1) ホームページや学習支援システムなどを活用し、本校の特色や教育活動の様子、緊急時の対応等の情報を適切に発信する。
- (2) 会議などの精選、ICT、グループウェアの積極的な活用により、教職員の働きがい意識した働き方改革を進め、教職員の心身の健康を維持する。
- (3) 地域との連携を深め地域に貢献するとともに、本校の教育活動を広く社会に知らせることで志願者の確保に努める。

IV 前年度の成果と課題

- 1 学力の定着をねらいとする取組、学力伸長の取組、個々の進路希望に応じた指導による進路実現はおおむねできた。さらに、生徒の実態に即した目標の設定、指導内容・方法の工夫と改善、発達や心身および家庭環境等の課題に応じた適切な支援を含む指導と評価の一体化が必要である。
- 2 各コース・分野とも外部機関と連携しキャリア意識の醸成に向けた取組を実施した。引き続き「総合的な探究の時間」を教科横断的、系統的に実施し、学びの成果を生徒自らが発信する機会を通して生徒の自己有用感を高める工夫を行う。
- 3 基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成、自他の人権を尊重する意識や態度を身に付ける指導を保護者等や外部機関との連携を一層進めながら継続する。
- 4 必要とされる教育的ニーズに対して支援を行うことができた。今年度もより細やかに情報を収集し、適切な支援につなげる必要がある。

令和7年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価最終		成果と課題
組織運営	スクールミッション・スクールポリシーに基づいた教育活動を全教職員の共通認識に基づき、具体的な取組の中で実践する。	会議や資料提供によって情報の共有化を図り、日常的に意見交流を行える環境をつくり、スクールミッション・スクールポリシーを踏まえた教育活動について共通理解を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の場だけではなく、校内・外での教育活動や生徒情報等の共有を日常的に図ることができた。 ・生徒指導提要の理念が各種指導の中で実践されてきているが、一人一人を大切に教育に向け今後も進めていく必要がある。 ・各種事業を有効に活用した取組により、各分野とも生徒たちの豊かな体験活動と進路希望の実現に寄与できている。今年度は特に外部機関との連携が広がったことから、今後は各種取組を系統的・有機的に連携させ、その効果をさらに高めたい。
		研修会の開催や校外研修会、管外視察等への積極的な参加により、本校の教育活動を随時点検、確認する。	B		
	本校の今後の方向性や新学習指導要領、生徒指導提要を踏まえ、地域から信頼されるよりよい学校づくりを実践する。	生徒指導提要を会議や研修会等多くの機会に触れることで共通理解を深め、生徒の成長に繋がる指導方法等の改善に努める。	B		
		各指定事業を本校の教育活動に位置づけて、新学習指導要領に基づき効果的な実施を図る。	B		
学習指導	BYODやICT機器、学習支援システムの積極的な活用を図りながら基礎学力の定着を図る取組を組織的・系統的に行う。	教員対象にClassi, ロイロノート, 自動採点システムなどを活用するための情報を教員間で共有し、組織としての学習支援システムの浸透を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のICT活用能力の向上に向けて、教職員研修を行い教員のエクセルの活用能力の向上につながった。 ・教務課部員の中で、自発的にmicrosoft365のツール(Forms・powerautomate等)の情報共有・勉強会を行い、業務改善の方法を模索した。 ・今後の学び直しについて、ICTの活用が有用と考えられ、学び直しの仕組みなどを検討したい。 ・年2回、公開授業週間を設けて、よりよい授業作りのため各教員グループで意見交流を行い、全体としても情報共有を行った。
		研修などを用いて、基礎学力の定着のみならず、学力伸長のための実践例等について教員間で情報共有を図る。	B		
	生徒が興味を持つ授業づくりのための工夫と各教科において観点別評価の研究を一層深め、指導と評価の一体化を確実に実行する。	研修や資料の提供により、教員間で指導と評価の一体化についての理解を深め、各教科において指導と評価のPDCAサイクルの実践を促す。	B		
		教科を横断した公開授業の参観等を利用し、教員同士が意見交流することで生徒が興味を持つ授業づくりを推進する。	B		
キャリア教育	各コース・分野の学習内容とも関連付け、すべての生徒のキャリア意識の高揚を図る取組を実践する。	様々な活動を通してインプットした力を、アウトプットする機会を設け自己肯定感を高める活動を増やす。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野において様々な取組を行うことができた。特に醍醐寺でのプロジェクトマップは、一般観覧も行え、より地域との関りが強まったと思われる。昨年に引き続き、生徒たちの成果をアウトプットする非常に良い機会となった。 ・各分野の取組、総合的な探究の時間の取組において、校内でのそれぞれが何を企画し活動しているか等、共有不足を感じる。行事担当者にHP/SNS等で取組を積極的に投稿してもらうことで、校内での共有、地域への発信を同時に行うことができるようにしたい。
		目標達成のために、地域とのつながりを深め、学校活動と地域社会ができる限り密接に交わる場を設ける。また、校内でも各クラスの取り組みを知る機会を築く。	B		
	「総合的な探究の時間」を教科横断的、系統的に実施し、協働学習、プレゼンテーション等をとおして主体性を培う。	綿密な学習計画に基づき、生徒達の表現活動の目標設定を学期ごとに設け、主体的に取り組める活動に結びつける。	B		
		探究活動における協働学習を通して、自他を大切にすることを育み、クラス、学年の一体感が高まる学習活動に努める。	B		
人権教育	自他の生命と人権を尊重する意識や態度を身に付ける取組を実践しつつ、教育活動全体を通して人権感覚の涵養を図る。	日々の授業やホームルーム活動を通して、深い信頼関係に基づく人間関係の構築を促す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年2回の人権学習を通じて多様性について理解することができた。 ・安全・安心な学校生活のためには、互いを尊重し合い多様性を認め合う心だけではなく、規律を守る態度も育てる必要がある。日々の学校生活のあらゆる場面で継続してアプローチしたい。
		人権学習や総合的な探究の時間、各教科の授業などをきっかけに、自己の行動の振り返りや他者との意見交流を図り、多様性を認め合う心および人権を尊重する意識や態度を育てる。	B		

令和7年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
				最終	
生徒指導 特別活動	基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成を図り、主体的に行動できる態度を育成する。	授業規律を守る意識と行動を第一に、身だしなみ・校則を守る意識・スマートフォン等の使用マナー・自転車乗車マナー等の課題において、生徒自身が判断する場面を設定し、学年部と連携を図り指導する。	B	B	・身だしなみ・校則を守る等の規範意識を向上させることを新学期当初からの第一目標として取り組み、一定の成果が見られた。今後も継続して学校体制として取り組んでいきたい。また、次年度に向けては規範意識の向上をさせることをさらに取り組んでいきたい。
		生徒個々の特性の理解に努め、教育支援の手法を用い、個に応じた指導をする。	B		
	人権と多様性を尊重する態度を養い、自己有用感の高揚を図る取組を進める。	既存の校則を生徒の学校生活に活かす工夫と、それに伴う課題の検証を行い、生徒の規範意識を育てる観点で指導する。	B		
		各種行事の取組を自主活動と捉え、生徒の自治能力を高め、リーダーを育成する観点で指導する。	B		
進路指導	キャリア意識を高めて、自らの将来を主体的に切り拓く能力を育成する。	Classiのポートフォリオを活用し、定期的に高校生活の振り返りを行い、高校卒業後の進路決定やキャリア意識の向上につなげる。	C	B	・定期的に進路希望調査やキャリアパスポートの取組を進め、各種ガイダンスや進路行事については、各学年の生徒対象及び保護者対象の説明会を行った。3年間で一定、進路行事の整理を行うことができた。また、早期から家庭や生徒へ進路や卒業後のイメージを持ってもらう取組が整備できた。 ・学習時間記録・学習トレーニングについて担任や教科と連携して取組を進め、定着した生徒が一定数いた。今後はこの取組を全体に定着させていきたい。 ・多様な希望進路に対応できるよう補習・個別指導・突破講座を開講した。国公立・難関私大対策会議を行い、学力上位層についての対応について検討を行い、効果を上げた。
		他校よりも多様な進路選択について、早期から進路決定に向けたガイダンスや行事を実施し、卒業時の進路やどう生きていくかのイメージ作りを促す。	B		
	希望進路の実現に向けて進路別取組を実践し、一人に合った学力伸長を図る取組を行う。	Classiの学習記録や学習トレーニングの機能を活用し、授業時間外の学習時間の確保と学力向上に努め、希望進路の実現につなげる。	B		
		東稜チャレンジや進学補習・突破講座等を活用し、進路希望に応じた力を身に付ける。国公立難関私立大学進学希望生徒については、個別指導を行い、志望校受験に必要な教科・科目、受験方式への対応ができるよう個別指導の体制を整える。	B		
健康安全 特別支援	健康に関心を持ち、適切に行動できる知識と態度を身に付けさせる。	健康診断、生活とからだの実態調査を実施する。	A	A	・健康診断、生活とからだの実態調査を実施。健康に関し、「保健だより」で発信した。 ・月例大掃除については、実施できない月は美化週間を実施。清掃用具の点検ができなかったため、来年度は美化委員会で点検を実施したい。 ・多様な課題を持つ生徒の状況を把握し、教育支援会議を通して情報共有をすることができた。また支援が必要な生徒に組織的・継続的に支援を行った。
		健康に関する情報を委員会を通して積極的に発信する。	B		
	教職員・生徒全員で校内の美化に努め、気持ちの良い学習環境を整える。	月例大掃除を実施する。	A		
		美化週間を通じて清掃点検を実施する。	A		
	生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な支援を組織的・継続的に行う。	多様な課題を持つ生徒の状況把握し情報を共有する。	A		
		支援が必要な生徒に組織的・継続的に支援を行う。	A		

令和7年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題		
				最終			
学校図書館	効果的な教育活動の実践に向けて、図書館機能のICT化を一層進め、最大限に活用できる体制づくりを進める。	探求型学習など生徒同士で学び合い、教え合う場の機能を整えるため、図書資料の充実及びネットワーク情報資源の活用を進める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・府立図書館電子書籍サービスのIDを1年生全員と希望者に配付することができた。また、カーリル（学校図書館支援プログラム）の更新も随時行った。 ・教職員や生徒のリクエストを踏まえた図書資料の充実を図った。 ・季節の行事やイベントに沿った展示を行い生徒の本への関心を促した。 		
		広報誌の発行や企画展示等を通して生徒の自主的な読書活動の推進を図る。	B				
施設設備管理	安心・安全で教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	定期的に校内巡視を行い、安心・安全に加え校内美化についても取り組み、事務室内でも環境整備が必要な箇所を共有する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に校内巡視を行い、事務室会議で破損箇所の共有を行った。体育館地下通路等の不要品の整理及び廃棄を実施し美化に努めた。 ・今年度は修繕計画により体育館内壁塗装を優先し実施した。 		
		年間の施設修繕計画を立てるとともに、業者による点検結果により、随時優先順位をつけて修繕を行う。	B				
修（就）学支援	修（就）学機会保障のための支援策を充実させ、保護者への情報提供を促進する。	Classiでの連絡を随時行い、修（就）学支援等の周知を徹底し、申請漏れを防ぐ。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Classiでの連絡により昨年度の対象者で申請の申出がない生徒には、保護者に個別に電話をしたり、生徒を通じて案内を手渡しする等、連絡をつながるまで行い、漏れを防ぐことに努めた。 ・日頃から生徒情報を担任・学年部長・教務部から口頭で聞くほか、事務部の職員間でも各自が聞いた電話連絡の内容を共有するなどして、担当者につなげるようにした。 		
		生徒についての情報を、担任・学年部長・教務部と共有する。	A				
学年	【第1学年】 生徒の規範意識、人権意識を高め、生徒自身が自主的、自発的に学習し、安心して自己の進路に向き合えることができる環境を構築する。	様々な場面で将来の進路を考えるきっかけを与え、学びの目的や学習規律の大切さを伝える機会を持つ。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて保護者連絡、面談を実施し家庭と密に連携を取ることができた。 ・授業状況調査を実施し、結果を分析して個別面談や家庭と連携し、きめ細かく対応することで基本的生活習慣の改善にも努めた。 		
		生徒や家庭に対してきめ細やかな声掛けや面談を行い、教員、生徒、保護者のベクトルを合わせる。	B				
	【第2学年】 進路実現と成人に向けての準備のサポートを進めていく。最高学年に向けてのステップアップのために、自発性と協調性、社会性の育成を目指していく。	進路指導の見通しを持たせるために、生徒、保護者に向けての情報提供、今やるべきことを明示し、目標を持たせる。	B			B	
		成人年齢を迎える前に、社会的なマナーや基本的生活習慣を意識させるとともに、学校行事とおして主体的な生徒の活躍の場を提供する。	B				
	【第3学年】 進路実現に向けて、各自がそれぞれの場面で責任感を持って行動する習慣を持たせる。成人として社会に出る心構えをつくり、充実した高校生活を送らせる。	きめ細やかな声かけや面談、家庭との連携を通して、ミスマッチのない進路実現に向けて、適切な指導・助言を行う。	B			B	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の実現に向けて、各担任で面談を実施し、学年で情報を共有することができた。また必要に応じて保護者連絡も行い、ミスマッチのないように連携を取ることができた。 ・卒業アルバム制作や卒業式に向けての準備を委員会を中心に企画することができた。
		学校行事や委員会活動、卒業アルバム制作等において、生徒自身が主体的に企画運営できる機会を設け、集団の中での役割を自覚し、責任のある行動がとれるように指導する。	B				

令和7年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価最終		成果と課題
国語	指導と評価の一体化を図る。	個々の学力に合わせた課題を課し達成感を感じさせ、評価に繋げる。 毎時間の目標を明確にし、付けるべき力を意識させる。	B	B	・コース毎のレベルに合わせた課題を課し、取り組ませることができたが、良質な課題や問いを投げかけることが重要であり、今後さらに工夫検討したい。 ・2年生アカデミーコースではClassiを用いて学習時間の入力等家庭学習への意識付けができた。
	家庭学習を促す取り組みや指導を行う。	ICTを用いて学習時間を記録させ、自身の学習状況を把握し、生徒に振り返りをさせる。 毎週課題を課し、基礎学力の定着を図るとともに、家庭学習の習慣をつけさせる。	C B		
地歴公民	社会に生きる公民として必要な公共的な知識を獲得させる。	ICTなどを用いた教材で社会の仕組みについて知識の定着を図る。 発表の機会を設けたりICTを用いた意見の交流を行ったりして知識を共有させる。	A C	B	・生徒の目線に合わせた授業の立案や、より伝えやすくするためのICTの導入については一定の効果を感じることができた。授業評価アンケートにおいても生徒から一定の評価を得ることができた。生徒間の意見の共有や発表までの時間を増やしたい。
	地理や歴史について、身近なところから興味を持たせ、人生に生かせる実感を持たせる。	臨場感のある問いを投げかけ、生徒に自分がそこにいたらと考えさせ、世界について身近なものに感じさせる。 単元を意識した授業を行い、社会で生きるために必要な知識を系統立てて伝えていく。	A B		
数学	生徒が興味をもつ授業を実践し、生徒がやりきれるように支援する。	ICT機器を有効に活用し、生徒が課題に取り組みやすい環境を整える。 日々の授業中に課題やこまめな考査の実施により、基礎学力の定着を図る。	B A	B	・授業プリントの工夫や、授業中の小テスト、定期考査の他に実施した平常テスト等によって基礎学力の定着を図ることができた。 ・実力診断テストにおいて、2極化が進んだ面があるため、学習に困難を抱える生徒に対して診断テストの意味付けや、授業時間内での事前学習と振り返り学習の実施など、アプローチを充実させる必要がある。
	進路実現に向けた取り組みを計画的に行う。	模擬試験等の事前指導、及び事後指導を充実させる。 進路希望に沿った長期休業中補習・平常補習を充実させるとともに、個別指導を計画的に行う。	C B		
理科	生徒の科学に対する関心を高め、主体的な学習を促すとともに基礎学力の定着を図る。	実験・実習など生徒が科学に触れられる機会を増やす。 教育支援事業等を活用し、科学の本質に迫る授業を実施する。	B B	B	・教育支援事業を活用して科学への関心を高め、進路希望を考慮した個別指導等で基礎学力を向上させることができた。 ・学習に困難を感じている生徒に対しては、学習意欲をひきだす課題作成と難易度設定について再度検討し、学習内容の定着を図る必要がある。
	個々の進路希望に応じた学習指導を実施する。	適切な難易度の課題や小テストにより学習内容の定着を図る。 進路補習において、個々の希望に応じた学習ができるよう支援する。	C B		
保健体育	生涯にわたって健やかな身体を養うための知識を身につける。	健康作りのための運動の大切さを理解させるとともに体力づくりを実践する。 ルールやマナーを守り安全に配慮し授業を安全に円滑に行う。	B B	B	・運動の大切さを理解させ、身体づくり運動を実施し、体力向上につながった。授業において安全配慮を行ったが、怪我防止のための安全配慮を強化したい。 ・スポーツ分野授業の2・3年生合同授業において、より学年を越えた関係が深まるように工夫したい。 ・外部コーチについては昨年度同様活用することができた。
	スポーツコースの実習等の充実	学年を超えた縦のつながりの強化を図る。 外部講師の活用を充実させる。	B B		

令和7年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価最終		成果と課題		
芸術	基本的な授業態度を定着させる。作品を完成・発表させるまでの過程・工程の自主的思考力・判断力を建設的に身に付けさせ、自己有用感をもたせる。	授業を大切にし、授業規律を守らせることで、生徒が安心して受けられる授業を展開する。 単元毎に生徒が自主的に考え、行動していることを評価する。また、その評価を積み重ねることで、生徒の情操感や達成感を育む。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの制作や発表を通して自己有用感を高め合い、豊かな心を育む授業を行うことができた。また、作品制作や発表の際には相互理解で終えるのではなく、探究的な学びに繋がるよう指導を行うことができた。 今後は、作品鑑賞や他の科目にも触れる機会を設けることで、生徒の感受性を高め、豊かな進路選択へ導きたい。 		
	作品を完成・発表させるまでの過程・工程の自主的思考力・判断力を建設的に身に付けさせ、自己有用感をもたせる。	時間をかけて取り組む過程を大切にし、作品を愛する心や情操感を養う。 作品の完成や発表だけでなく、取り組む過程・工程等、生徒が自主的に考え、行動できていることを評価する。	A				
英語	英語の基礎的な知識の定着を図る。	習熟度の確認を積極的に行い、早期に生徒の躓きを把握し、対応する。 小テスト、Classi、ロイロノート等を利用し、家庭学習習慣を確立させるとともにICT機器を活用し、分かりやすい授業や学習支援を行う。	B			B	<ul style="list-style-type: none"> Classiの課題配信のみではなく、生徒の習熟度、課題の進捗をこまめに確認していきたい。 4技能の統合を目指した授業改善が、さらに求められる。 定期テストにおいては、授業、事前のテスト対策等を通じて、生徒の一定の理解度を測ることができた。
	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	パフォーマンステストやTTを活用し、4技能の統合を目指す取り組みを定期的・継続的に行う。 GTECを活用し、生徒の学習意欲や学力の向上を図る。	B				
家庭	社会と家庭生活に目を向け、自分自身の問題として、主体的に生活の充実と向上を図る。	主体的に生きる生活者として、必要な知識と能力を身につけることを目標に、実験・実習を取り入れる。 自分らしい生き方について考え、生徒自身が主体的に考える力を育てる教材を工夫する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に生活を営む知識と能力を身につけた。一方、近い将来は考えられるものの10年先、20年先のことまで考えることは難しかったため、遠い将来も考えられる授業の工夫を行う必要がある。 		
	基本的な授業態度、学習に臨む姿勢を身につけさせる。	授業規律を確保し、学習に臨む態度を身に付けさせる。 考査前の学習の仕方を指導する。	B				
情報	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する技能を習得させる。	実習を通して、問題の発見・解決に向けて様々なアプリケーションソフトを取り扱いながら情報活用能力を高める。 主体的・対話的な活動を積極的に行い、問題解決能力を高めることができるよう指導内容を工夫する。	B			B	<ul style="list-style-type: none"> 新課程科目「情報I」実施4年目になり、昨年度初めて実施された大学入試共通テストを参考に、実習内容を厳選して実施した。問題解決実習においては主体的・対話的な活動に、生徒がより積極的に参加できるように工夫したい。 身近な題材を利用しながら実習をする中で、実践的な学びを多くしたクラスもあり、成長が見られた。
	情報社会と人との関わりについて理解を深め、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	図解や動画など様々な資料を利用しながら、情報社会に興味・関心を持てるように指導する。 情報社会と人との関わりについて、実践的な学びになるよう指導内容を工夫する。	B				
学校関係者評価委員会による評価	生徒と教職員が一体となって取り組む「東稜大作戦」では、それぞれのコースや分野の、特色ある授業での学びを生かしたプロジェクトマップングをはじめ、生徒が生き生きと取り組んでいることが印象的である。様々な活動や体験を通じて生徒達が非認知能力等の社会性を築く力を高める指導をさらに進めていただきたい。						
次年度に向けた改善の方向性	授業を基本に個に応じた粘り強い教科指導を継続するとともに、コースや分野の特色ある学びや活動を通して生徒の学力向上を図る。3年間の学習・生活の基盤形成として初期指導を丁寧に行い、自ら考え行動できる力を育むため、教科指導、生徒指導、進路指導のさらなる充実に向けて学校全体で取り組んでいく。						